

令和7年  
2025年

5月16日  
金曜日

第11712号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】 株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



MLAが万博会場のオーストラリアパビリオンでBBQイベントを開催……P4

- ▶フリーデン 加藤慎太郎商品部長 無塩せきの新商品「やまと豚」軸ぶれずに……P2
- ▶売上高は過去最高を記録、スターゼンが2025年3月期決算で会見……P3
- ▶MLAが万博会場のオーストラリアパビリオンでBBQイベントを開催……P4
- ▶鶏用遺伝子組換え生ワクチン使用等に関するパブリックコメント……P4
- ▶鶏短期肥育事例紹介—敷島ファーム……P4
- ▶有機畜産物が輸出可能、EU加盟国との有機同等性の範囲が拡大……P5
- ▶[役員人事]下仁田ミート(4月15日付)……P6
- ▶滝沢ハム25年3月期決算は売上高280億円、食肉部門は3・6%増……P7
- ▶[役員人事]滝沢ハム(6月25日付)……P7
- ▶【関東の輸入豚肉現物相場】Cはスソ物に引き合い、Fは先高感も……P8
- ▶【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにスソ物中心の荷動き……P8
- ▶ビッグボーイ「5月の29(肉)の日」を3日間限定で開催……P9
- ▶[輸入牛現物相場]CFともにショープレの価格は下落傾向……P9
- ▶【ブロイラー市中現物相場】国産生鮮物の高値から輸入モモ正肉に先高感……P9
- ▶[東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]15日……P10
- ▶[各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]15日……P11

## 注目のヘッドライン

フリーデン 加藤慎太郎商品部長  
無塩せきの新商品「やまと豚」軸ぶれずに

…詳細はP2

売上高は過去最高を記録、スターゼンが  
2025年3月期決算で会見

…詳細はP3

りんご和牛  
**信州牛**  
登録商標 第1394040号

**信州プレミアム牛肉**  
登録商標 第5282895号 第5282894号

**信州牛生産販売協議会**

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する  
**ビセラル株式会社**

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12  
営業一課 / ☎(03)3919-2929 FAX(03)3919-2930  
総務 / ☎(03)3919-2980 FAX(03)3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

## フリーデン 加藤慎太郎商品部長 無塩せきの新商品「やまと豚」軸ぶれずに

——昨年度の経営状況をお教えてください。

売り上げはおおむね計画どおりですが、前年までと同じく輸入飼料価格、物流費、エネルギーコストが高騰しており、利益面では状況が厳しく、減益となりました。

こうした環境下、できる限りのコスト削減に努めています。豚肉の歩留まり改善、物流の回数調整、自社内で実施できる品質検査の範囲拡張など、コスト削減の取り組みを少しずつ積み重ねているところです。

苦境にあっても「やまと豚」のブランドコンセプトの軸がぶれないよう、社会情勢の変化による諸問題に対応しつつ、最善を尽くしています。

——消費動向の変化について、どう捉えておいでですか。

あらゆる食品の価格が上昇する中、小売店としては食品の安売りにも限界があるため、素材にこだわった高品質な商品を販売する傾向も見受けられるようになりました。この状況をチャンスと捉え、当社製品に興味を持ってもらうため、消費者の要望にこたえられるような商品開発をしなければなりません。

当社はスーパーなどの実店舗だけでなく、オンラインでも商品の魅力をアピールしています。販売と市場調査を兼ねるような運用となっており、アイテムの特長を文字で詳細に伝えられる一方、消費者の意見をきくこともできます。それらの声に応じて改良を重ね、需要にマッチした商品を作っています。

——今年度の経営方針を、おきかせください。

会社全体としては、国産飼料の比率向上を目指し、自社農場では飼料用米、国産とうもろこしを用いた豚肉生産を推し進めています。

しかし、最近は飼料用米から主食用米に、とうもろこしから麦や大豆にシフトする生産農家も少なくなく、今後を見据えて状況を注視する必要があります。当社の目指す方向性が変わったわけではありませんが、周囲の環境に応じた方策を立てることも大事です。

さらに、売り上げを維持・拡大するためには、加工品の強化がポイントとなります。そこで、ハム・ソーセージ類、総菜類の好調維持のため、二つのテーマを掲げます。一つは、「無塩せき」の新規ブランド「フ

リーデンナチュラル」を定着させること。もう一つは総菜用の強化です。

——価格改定についてはいかがですか。

加工品に関しては、取引先にもご理解をいただき、前年度は2回の価格改定を行いました。ソーセージを小さくしたりハムを薄くしたりするのではなく、プラスアルファの付加価値をもたらすことによる売価設定をしたいと考えます。なお、高騰が続く輸入品との価格差が以前よりも小さいため、当社製品を含む国産品を手にする人は多いようです。

当社が今期で創業65周年を迎えたことに伴い、増量セールなども予定しています。販売価格そのものは下げずとも、このような販促企画は検討中です。

——そのほか、新たな取り組みをおきかせください。

人手不足が叫ばれる社会ですが、当社も例外ではありません。限られた人数で運営していくにはIoTが不可欠で、具体的には飼料タンクでその技術を取り入れています。従来、はしごで飼料タンクに上って目視で残量などをチェックする必要がありましたが、IoT化により、事務所内でも確認を行えるようになりました。豚の肥育に欠かせない豚舎の温度管理についても同様の技術を取り入れ、作業効率を高めています。こうしたデジタル化は、今後もさらに進めていくつもりです。

そのほか、名刺やコピー用紙、配送用段ボール、ギフト用の箱をFSC認証紙に切り替えたり、地球環境に優しい包材やラベルを使ったり、自社工場でソーラーパネルを設置したりといった取り組みも、引き続き進行中です。ただ、こうしたSDGsの実現に向けた努力は、世間的にも徐々に当たり前のことになってきたと感じます。また、先述したとおり、当社は今期で創業65周年を迎えます。今期限定の商品を販売するなど、当社製品を使った企画で盛り上げていきたいと思っています。(連載終わり)



## 売上高は過去最高を記録 スターゼンが2025年3月期決算で会見

スターゼンは15日、2025年3月期決算に関してWEBで記者会見を開催した。会見には横田和彦社長、森上倫輔執行役員財務経理本部長が出席。まず、森上執行役員が決算概要について説明し、続いて横田社長が中期経営計画の進捗状況、資本収益性向上への取り組み、26年3月期業績、配当予想について説明した後、質疑応答へと移った。その要旨は次の通り。

〔森上執行役員〕 為替の乱高下や飼料価格が高止まりする中、消費者の生活防衛意識は強く、安価な商品に需要が移行し、消費に力強さを欠く厳しい状況だった。しかしコスト上昇分の価格転嫁に努めた結果、売上高は過去最高となった。利益面では、営業利益は人件費、物流費などのコスト増加分を売上拡大による販売利益でカバーした結果、増益となった。経常利益は持分法利益が増加したが、関連農場の債務保証引当金や支払利息の増加などにより微減だった。当期純利益は固定資産売却益を計上したことから大幅増となり、過去最高益となった。

国産食肉は、牛肉は重量がわずかに減少したが売上げは増加、豚も売上増となったことから売上高は1807億円(前期比3・9%増)に。輸入食肉はコスト上昇で販売に苦戦したが、相場高で売上げが増加し1625億円(8・6%増)となった。加工食品はハンバーグやローストビーフなどの取扱量の増加により増収となり、783億円(9・3%増)だった。ハム・ソーセージは商品の絞り込みなどを行った結果、取扱量が減少し売上高は91億円(4・5%減)と減少した。

親会社株主に帰属する当期純利益を前期と比較すると、前期の75億円に和牛の輸出伸長や加工食品の伸長により売上総利益が10億円増加し、販管費では人件費や運賃の増加で9億円の損失となり、営業外損益では持分法による投資利益があったものの債務保証引当金の増加で1億円の減益、これに特別損益として土地の売却益が加わり67億円増、法人税などの増加で18億円の損失があり、トータル121億円の増加となった。

〔横田社長〕 23～25年度の中期経営計画は「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」を

テーマとし、新規事業への挑戦、国内事業改革、サステナビリティ経営と経営基盤強化の三つの方針で進めている。その進捗状況をみると、成長投



資を着実に実行し、成長の要である海外事業は堅調に推移し、利益貢献度の高い加工食品はこの10年で2倍に成長した。スターゼンの強みとは、国内での強みが海外事業拡大に向けての競争優位性につながっていること。国内での強みとは、川上から川下までのトータルサプライチェーンである。

海外事業の積極展開では、豪州の生産企業を買収。肉用牛の安定生産に向け、肥育から直接関与できるようになった。なぜ豪州なのか。豪州と当社の歴史的なつながりをみると、1955年に豪州から冷凍牛肉を初輸入したのに始まり、72年にはゼンチク・オーストラリア(現スターゼンオーストラリア)を設立。豪州とはこうした強固な基盤がある。それ以外にも豪州の地理的な条件があり、食肉需要が増加している中国・東南アジアに近く、チルドでの輸送が可能なこと、島国という特性上、外部からの疾病に強いこと、ハラール認証取得工場が多く、イスラム国への参入機会が多いことなどが挙げられる。また、他国との経済連携協定も多く結んでおり、中国、インドネシア、タイ、フィリピンへは関税なしで牛肉が輸出できる。

豪州で買収したブロードウォーターダウズ社はブリスベン郊外にあり、東京ドーム1500個分以上の広大な土地で約4千頭の豪州Wagyuを肥育している。ここでは「御櫻牛」「八桜牛」というオリジナルブランド牛肉の生産拡大を図る。日本からの和牛輸出では、当社の輸出専用ブランド「AKUNE GOLD」を強化する。世界ステーキコンテストで最優秀賞を受賞したことから知名度がアップしている。鹿児島の水迫ファームと資本業務提携を行い和牛の肥育ノウハウを豪州で生かすよう取り組んでいる。(連載続く)

## MLAが万博会場のオーストラリアパビリオンでBBQイベントを開催

MLA豪州食肉家畜生産者事業団(トラヴィス・ブラウン駐日代表)は14日、大阪市此花区の大阪・関西万博会場内のオーストラリアパビリオンで、食肉卸・小売、メディア関係者ら多数を招き「MLA BBQ懇親会」を開催した。MLAはオーストラリアパビリオンの正式スポンサーを務めており、その一環として本イベントを実施。会は2部制で行われ、オージー・ビーフ&ラムのアンバサダーがライブクッキングステーションでステーキ肉などを実際に焼いて提供。合計約100人の参加者が交流を深めた。

冒頭、MLAのブラウン駐日代表が、出世者への謝辞を述べた後、「チャットGPTに大阪万博の目的を訪ねてみたところ、世界的なイノベーション。そしてサステナブルな開発のためのプラットフォームを提供することだそう。これを、オーストラリアの赤身肉産業に置き換えて考えると、私たちはこれらの多くの分野で貢献しているといえる。イノベーションの面では、サプライチェーン全体の効率と収益性を高めるために、生産性向上のための家畜改良や、品質をリアルタイムで評価するシステム開発、メタンガス排出を抑制する飼料の開発など、革新的な方法を通じて高品質な食肉をパートナーに提供している。また、“サステナブル”は、私たちの長年のテーマであり最優先事項。オージービーフ、ラムは日本を含む世界中で高品質、安全なタンパク源として支持されている。先週、オーストラリアから日本に初めてチルドビーフが出荷されてから55周年を迎えた。両国の赤身肉分野での協力には長く力強い歴史がある。この10年間でも、MLAではオージービーフマイト、ラムバサダーという強力なネットワークを構築してきた。現在、日本では約30人のフードサービスの専門家が、MLAと密接に連携しながらアンバサダーとして活躍している。メンバーにはミシュ



ラン星付きシェフ、熟練の精肉職人、ワインの専門家、企業メニューのアドバイザーなど多岐にわたる。今日の交流を通じて、



彼らの持つ知識や経験をビジネスに活用できるのかを、考える機会にさせていただきたい」とあいさつ。そのあと、健康メニュー開発など食と栄養のコンサルタントで、オージービーフマイトを務める石坂優子氏の乾杯の発声の後、懇親に移った。

## 鶏用遺伝子組換え生ワクチン使用等に関するパブリックコメント

農水省は15日、鶏用遺伝子組換え生ワクチンの第一種使用規程(1件)に関する承認申請を受け、申請書類の内容の妥当性を確認し、審査報告書をまとめた。この報告書について15日からパブリックコメントを実

施する。提出期限は6月13日。インターネット「電子政府の総合窓口(e-Gov)」の「意見入力へ」または郵送(締切日必着)で農水省消費・安全局 農産安全管理課 組換え体審査担当宛てに提出する。

## 短期肥育実例紹介—敷島ファーム

(株)敷島ファームは、北海道白老町と栃木県那須町を拠点とし、2011年に設立。畜産事業を中心に、企業内耕畜連携の農園事業、食肉加工および販売を行う食品事業、自社生産の黒毛和種などを提供するレストラン・ホテル事業など、多角的に展開している。現在、黒毛和種においては、約1万1千頭(繁殖牛5300頭、肥育牛3400頭、子牛2300頭)を生産している。

外部からの素牛導入はなく、繁殖から肥育までの一貫体制が整っており、より自然な形で育てることができ、牛にストレスのない環境で育てることができる。例えば、同社では分娩後の母牛に子牛をつけて哺乳させる親付け(自然哺育)の飼育方法を行っており、健康で体格の良い牛が育てられる。

敷島ファームでは、約4年前より持続可能な畜産の未来に向け、脱炭素への取り組みを推進する「ゼロカーボンビーフ」プロジェクトを進めており、取り組みの一つとして、早期出荷および短期肥育による肥育期間の短縮を行っている。

現在は26カ月齢の去勢牛を出荷している同社だが、以前は30～32カ月齢の牛を出荷していた。同社の五十嵐将光常務(畜産事業部長、写真)は、これだけ改良が進んでいるのに出荷月齢が早くなっていないことに疑問を持ったと話す。そこで、従来の月齢出荷から品質や重量は落とさずに、生後25～26カ月齢での出荷にシフトさせる早期出荷プロジェクトを開始。ゲノミック改良による牛群改良をこれまで進めた事、また飼育技術の工夫により短期肥育牛の安定出荷を実現した。



また、育成時期から牧草や粗飼料、配合飼料などをうまく給餌し、短期肥育に向けて、前倒しで粗飼料や配合飼料の調整しながら飼育するなど、一貫経営だからこそその強みもある。

五十嵐常務は「短期肥育においては、流通の理解がないと難しい。われわれが、今プロジェクトを進めることができるのも、販売先など一緒になって取り組んでくれる企業がいるからこそ」とし、「短期肥育を推進するためには、繁殖農家、肥育農家、購買者それぞれがメリットを感じる施策が必要である。例えば、子牛市場に早く子牛を出荷すると補助金を出すなど。繁殖農家のリスクも減り、肥育サイドも若いうちから買うことで肥育期間を短縮できる。短期肥育の肉を買った企業に対して、何か支援をするなど、全員で動いていかないと進まないだろう」と話す。

一方で、「短期肥育については、環境負荷低減のほか、飼料や敷材、燃料代などの生産コストの削減にも寄与している。また、環境負荷低減は海外に目を向けた時に重要なポイントになってくると感じている」と期待感を示した。

## 有機畜産物が輸出可能、EU加盟国との有機同等性の範囲が拡大

農水省は15日、有機JAS認証を受けた有機畜産物および有機畜産物を原料とした有機加工食品、また有機酒類が18日から、有機(organic)と表示してEU加盟国へ輸出できるようになると周知した。また、EUの制度による認証を受けた有機畜産物等の輸入については、16日からJAS制度に基づき「有機」等と表示することができる。

これまで、有機農産物および有機農産物加工食品は、日本とEU加盟国との間において有機JAS制度に基づく輸出入行われていた。2020年に日本で有機畜産物の表示規制が開始されたことなどから、農水省と国税庁がEUと協議を行ってきた。有機JAS制度に基づき輸出入できるようになることから、有機食品の輸出の増大等が期待される。

## 「京都食肉市場まつり2025～肉の聖地・京都で夢の肉宴～」を開催

京都食肉市場まつり2025実行委員会は11日、京都市下京区の梅小路公園七条入口広場で「京都食肉市場まつり2025～肉の聖地・京都で夢の肉宴～」を開催した。

京都市中央食肉市場は市場で厳選・加工された食肉を「京都食肉市場ブランド」と認定し、消費者へのPR活動に努めている。今回、市場でこだわりの仕入れをする食肉企業と牛・豚を出荷する生産者が一堂に会し、市場ブランドの肉を使った料理と精肉の販売を行った。

祭りには、伊賀肉の駒井、いけだ食品、牛匠かぐら、京都嵐山 中村屋総本店、京都食肉市場まつり実行委員会(京都食肉市場)、京都丹波牧場、京都焼肉 南大門、京のお肉処 弘、銀閣寺大西、JA全農ひろしま、特選和牛焼肉 一寸法師、三嶋亭、焼肉とビール 市場小路。農産物販売は鹿児島県



経済連、JA全農長野 長野興農。PRブースは京都市中央食肉市場、京都和牛祭実行委員会画が参加。周辺には人気観光スポットなどもあり、会場には親子連れなども含め朝から大勢の人が訪れ、終始にぎわいをみせた。

## 有機畜産物が輸出可能、EU加盟国との有機同等性の範囲が拡大

農水省は15日、有機JAS認証を受けた有機畜産物および有機畜産物を原料とした有機加工食品、また有機酒類が18日から、有機(organic)と表示してEU加盟国へ輸出できるようになると周知した。また、EUの制度による認証を受けた有機畜産物等の輸入については、16日からJAS制度に基づき「有機」等と表示することができる。

これまで、有機農産物および有機農産物加工食品は、日本とEU加盟国との間において有機JAS制度に

基づく輸出入行われていた。2020年7月から日本で有機畜産物の表示規制が開始されたこと、22年10月から有機酒類が有機JASの対象になったことから、農水省および国税庁がEUと協議を行ってきた結果、有機酒類、有機畜産物および有機畜産物を原料とした有機加工食品についても、有機JAS制度に基づき輸出入できるようになった。これにより、有機食品の輸出入に係る手数料や手間が軽減され、輸出の増大等が期待される。

## 【役員人事】 下仁田ミート (4月15日付)

下仁田ミートは4月15日に開催された株主総会および取締役会において、新役員が専任され就任した。新役員体制は以下の通り。

代表取締役社長 永井一郎(重任)▷専務取締役 神戸雅広(重任)▷常務取締役(ミート事業部長) 渡邊剛(昇任)▷常務取締役(養豚事業部

長) 佐藤光晴(昇任)▷取締役(安中店店長) 富澤真吾(重任)▷取締役(吾妻牧場場長) 横堀秀文(新任)▷取締役(安中牧場場長) 吉澤遼太(新任)▷監査役

[非常勤] 永井哲也(重任)、小井土壽津江(重任)

## 滝沢ハム 25年3月期決算は売上高 280 億円、食肉部門は3・6%増

滝沢ハムが14日、2025年3月期決算短信を発表した。それによると、売上高は物価上昇に伴う個人消費の減退から販売数量が減少したことにより280億8800万円(前期比0.4%減)、営業損失4億3200万円(前年同期1億4400万円の営業利益)、経常損失4億500万円(前年同期1億7300万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純損失4億9500万円(前年同期1億2300万円の親会社株主に帰属する当期純利益)。加工品販売では5月と10月に価格改定を行い、食肉部門では仕入先の見直しとコスト削減を図るなどの取り組みを行ったが、原材料などのコストアップ要因を吸収できず、減収減益となった。

部門別の概況は次のとおり。食肉加工品部門については、ハム・ソーセージ等の販売数量が減少した結果、売上高は109億8100万円(前年同期比3・0%減)となった。

総菜その他加工品部門については、CVS向け

総菜品の売り上げが減少した結果、売上高は51億4100万円(2・8%減)となった。

食肉部門については、輸入・国産ともに牛肉および1次加工品が増加した結果、売上高は118億6900万円(3・6%増)となった。

その他部門については、外食部門等の売上高は9600万円(30・7%減)となった。

次期(通期)は、売上高293億5千万円、営業利益1億円、経常利益1億円、親会社株主に帰属する当期純利益7500万円を見込んでいる。

滝沢ハムの25年3月期決算

単位:百万円、%

		25年3月期	前期比	次期予想	前期比
連結	売上高	28,088	△0.4	29,350	4.5
	営業利益	△432	-	100	-
	経常利益	△405	-	100	-
	親会社株主に帰属する当期純利益	△495	-	75	-
個別	売上高	27,992	△0.3	29,250	4.5
	営業利益	△437	-	-	-
	経常利益	△405	-	100	-
	当期純利益	△495	-	100	-
部門別		売上高	前期比	営業利益	前期比
連結	食肉加工品	10,981	△3.0	-	-
	総菜その他加工品	5,142	△2.8	-	-
	食肉	11,870	3.6	-	-

## 【役員人事】 滝沢ハム (6月25日付)

滝沢ハムは14日、取締役会において監査等委員会設置会社移行後の役員候補者を次のとおり発表した。同社は6月25日開催予定の第75回定時株主総会での承認を前提として、現在の「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」へ移行する予定となっている。

取締役候補者(監査等委員である取締役を除く)(6月25日付)

瀧澤太郎代表取締役社長、阿部竹男専務取締役食肉本部長、山口輝常務取締役管理本部長、浜村恭弘社外取締役(新役職と、現役職は変わらず)

監査等委員である取締役の候補者(6月25日付)

取締役常勤監査等委員(常勤監査役)大橋晴夫  
 ▽社外取締役監査等委員(社外監査役)鎌形俊之  
 ▽社外取締役監査等委員(弁護士〈新任〉)新田裕子

【訂正】本紙15日付8面、滝沢ハムの次期(通期)連結業績予想の一部が、文中と表で誤っておりました。

た。おわびするとともに再掲いたします。

## 【関東の輸入豚肉現物相場】Cはスソ物に引き合い、Fは先高感も

[フローズン] 米国の関税施策や為替の動向も含め、輸入環境は引き続き不確実性が高い状況にある。引き続き欧州産については生産量の減少などに加え、現地相場の上昇もあり、ベリーなどを中心に高値傾向で推移しており、先高感もみられる。

[チルド] ゴールデンウィーク明けの補充手当などはそれほどみられず、不需用期に入り、荷動き自体はそれほど活発ではない。引き合いはスソ物中心となっている。一方で気温も上昇し、国産相場が上がる時期となっており、輸入物へのシフトするケースも。

【輸入豚肉現物相場】 (関東仲間冷蔵庫渡し)

		キロ/円、税抜き		
	輸入元	部位	相場	気配
フローズン	米国産	クッションミート	730中心	→
		テンダーロイン	850中心	→
	カナダ産	ショート・ボックス	780中心	→
		ウデ	750中心	→
		モモ	750中心	→
	デンマーク産	ベリー	950中心	↗
		カラー	900中心	↗
		ロインMM	870中心	→
		テンダーロイン	870中心	→
	フランス産	シートベリー	920中心	↗
カタロース		880中心	↗	
チルド	米国産	ロイン (FLON)	780中心	→
		CCロイン	780中心	→
		ヒレ (船便)	1,050中心	→
		山付ベリー	1,230中心	→
	カナダ産	ボックス	840中心	→
		テンダーロイン	1,050中心	→
		ベリー	1,150中心	→

## 【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにスソ物中心の荷動き

今週に入り、枝肉相場は急上昇している。上物価格600円台後半まで上げており、例年同様、夏に向けて高値となってきた。ゴールデンウィークも終わり、節約志向が強い中で末端消費は鈍いが、例年同様気温の上昇とともに出荷頭数は減少基調となってきている。一方、荷動きについては引き続きウデやモモなどのスソ物の引き合いは堅調だが、ロイン系などの動きは芳しくない。

フローズンも同様にスソ物が荷動きの中心であり、中部位の荷動きは鈍い。スペアリブなど

の需要はそれなりにあるものの、行楽需要にも一服感が出る時期であり、それほど強くはない。

関東の国産豚カット肉相場

生鮮物		冷凍物	
部位	相場	部位	相場
カタロース	980~1,030	カタロース	880~940
ウデ	720~750	ウデ	670~700
ロース	960~1,000	ロース	880~940
バラ	1,000~1,080	バラ	950~1,000
モモ	750~780	モモ	690~730
ヒレ	980~1,030	ヒレ	880~940

## ビッグボーイ「5月の29(肉)の日」を3日間限定で開催

(株)ビッグボーイジャパンが展開するハンバーグ&ステーキレストラン「ビッグボーイ」「ヴィクトリアステーション」は28~30日の3日間限定で、「5月の29(肉)の日」を開催する。

同店では毎月29日に合わせてお得にハンバーグやステーキを楽しめる“29(肉)の日”を開催し、好評を博している。「5月の29(肉)の日」は、ふっくらジューシーな手ごねハンバーグを思う存分堪能できるボリューム満点なメニュー2品を用意。

「1ポンド手ごねハンバーグ」(税込1749円)

は、牛肉と豚肉の割合にこだわった挽き肉とフレッシュな玉ねぎを、毎日店舗で手ごねして仕上げるビッグボーイ定番の商品。ふっくらとした肉とシャキッとした玉ねぎの食感を楽しめる。

また同キャンペーンでは、同店史上最重量級の手ごねハンバーグや、チーズ・目玉焼きなどをトッピングした「3種のトリオハンバーグ」(1749円)を味わえる。濃厚なチェダーチーズや香り高い自社製燻製ベーコン、目玉焼きをトッピングした3種類の手ごねハンバーグを堪能できる商品となっている。

## 【輸入牛現物相場】CFともにショープレの価格は下落傾向

豪州産チルドは外食を中心にGW明けの補充買いが期待されたが、大きな荷動きはない。中旬以降、在庫の多いバラ系などで現状の相場を下げていくことも考えられる。モモ、カタは不足感なく、一定の引き合いが続いている。米国産チルドはショートプレートの価格が下落傾向。下がったといっても、比較的良好に動いている。それでも相場が下がっているのは、今後の相場下落を見越し、今のうちに段階に下げて在庫を消化しておきたいという狙いだ。

フローズンの各部位も豪州産、米国産ともにチルドと同じような状況だ。チルドよりも赤身部位の在庫が適正もしくは少な目で、豪州産ナールはチルド以上に動きが鈍い。これは米国産ショートプレートの相場が下落している影響からだろう。米国産はショープレを中心に動いている。GW中の末端販売は良し悪しが分かれたとみられ、連休明け早々からショープレの投げ売りもみられる。先々の全体的な相場見通しでは、チルドが段階的に下がる見立てである一方、フローズンでは為替の状況も鑑みながら慎重な見方をする声が多かった。

【輸入牛肉現物相場】		円/キロ	
		グラス	ショートグレイン
豪州産	トップサイド	1,350 ~ 1,450	1,450 ~ 1,550
	シックフランク	1,400 ~ 1,450	1,480 ~ 1,550
	アウトサイド	1,300 ~ 1,350	1,400 ~ 1,450
	ポイント	1,250 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	ナール	1,100 ~ 1,200	1,150 ~ 1,400
	ランプ	1,550 ~ 1,650	1,750 ~ 1,900
	クロッド	1,300 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	チャックロール	1,450 ~ 1,550	1,600 ~ 1,700
	チャックテンダー	1,400 ~ 1,450	1,500 ~ 1,550
	キューブロール	3,000 ~ 3,200	4,000 ~ 4,300
C	ストリップロイン	2,300 ~ 2,400	2,500 ~ 2,600
	テンダーロイン	4,300 ~ 4,500	4,700 ~ 4,800
豪州産	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,280 ~ 1,350	-
	ナール	1,000 ~ 1,200	-
	カウミート	950 ~ 1,200	-
F	トップサイド	1,500 ~ 1,550	-
	シックフランク	-	-

		チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,650 ~ 1,750	1,500 ~ 1,600
	ショートプレート	1,200 ~ 1,300	1,050 ~ 1,150
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,500 ~ 3,600	3,300 ~ 3,400
	ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	-
	リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
産	チャックアイロール(チョイス)	1,900 ~ 2,400	1,750 ~ 1,950
	同(プライム)	2,400 ~ 2,600	1,850 ~ 2,300

## 【ブローラー市中現物相場】国産生鮮物の高値から輸入モモ正肉に先高感

◇国産物 全国的に夏日が増えたことで、生鮮はモモの需要が鈍り、ムネ、ササミなど涼味商材の動きが良くなっている。一方で、日経加重平均の東京相場は13日にモモ848円、ムネ490円といずれも高値域にある。冷凍物はおおむねもちあいが、生鮮物が高いことで代替需要が増す可能性はある。

◇輸入物 ブラジル産、タイ産、米国産共に、高値

で張り付いている。国産生鮮物の高値が続いていることで、一部量販店などでブラジル産モモ正肉解凍品を訴求する動きもあるようだ。為替もやや円安に振れていることで、ブラジル産、タイ産共にモモ正肉を中心にやや先高感が出た。

ブローラー現物相場	
国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	600~630
ムネ正肉(〃)	400~420
手羽モト(〃)	290~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産B I L	550~570
ブラジル産モモ正肉	450~460
ブラジル産モモ角切り	460~480
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	480~490
タイ産モモ角切り(25~30g)	460~470
米国産モモ串	玉なし

単位：円/kg

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 5月15日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	17,308	2,507	2,198	-	-
		安値	2,326	2,240	2,102	-	-
		平均	2,818	2,358	2,154	-	-
	84頭	頭数	70	12	2	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	1,364	-
		安値	-	-	-	1,355	-
		平均	-	-	-	1,360	-
	2頭	頭数	-	-	-	2	-
	去 A	高値	3,243	2,404	2,222	-	-
		安値	2,269	2,216	2,164	-	-
		平均	2,587	2,327	2,205	-	-
	152頭	頭数	128	20	4	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,193	-	-	-	
1頭	頭数	-	1	-	-	-	
乳牛	雌 B	-頭	平均	-	-	-	-
	雌 C	-頭	平均	-	-	-	-
	去 B	-頭	平均	-	-	-	-
	去 C	-頭	平均	-	-	-	-
交雑牛	雌 B	23頭	平均	1,749	1,641	1,571	-
			頭数	7	15	1	-
	雌 C	-頭	平均	-	-	-	-
			頭数	-	-	-	-
去 B	33頭	平均	1,865	1,747	1,686	1,584	-
		頭数	2	9	17	5	-
去 C	3頭	平均	-	1,650	1,523	-	-
		頭数	-	2	1	-	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	396	993	-	(競り)	(相対)	
売買	399	878	216.0	-	-	68

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,388	1,557	1,506	1,526	-
	B	-	1,472	1,426	1,347	1,282
和 去	A	2,383	-	-	1,513	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	903
	C	-	-	-	947	929
乳 去	B	-	-	-	1,200	-
	C	-	-	-	1,205	-
交 雌	B	-	1,765	1,609	1,568	-
	C	-	-	1,565	1,424	-
交 去	B	1,823	1,746	1,654	-	-
	C	-	1,561	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	815	843	727	865	578
	安値	648	616	584	454	324
	平均	730	647	617	597	478
	頭数	( 5)	( 302)	( 320)	( 101)	( 150)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 5月15日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,570	2,192	-	1,827	-
(頭数)	( 10)	( 12)	( 1)	( 1)	( -)
B	-	-	1,998	1,577	-
(頭数)	( -)	( -)	( 1)	( 1)	( -)
和 去 A	2,549	2,215	1,950	-	-
(頭数)	( 16)	( 7)	( 2)	( -)	( -)
B	-	2,145	-	-	-
(頭数)	( -)	( 1)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,809	1,781	1,616	-
C	-	1,766	-	1,578	-
交雑去 B	1,938	1,858	1,781	1,646	-
C	-	-	1,731	1,609	-
豚	-	705	665	567	483

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	5月15日	5月14日	(5月累計)
豚	65,300	64,500	591,300
成牛計	4,080	4,800	36,080
和牛雌	1,040	1,280	8,960
和牛去勢	1,260	1,280	9,710
乳牛雌	620	610	5,620
乳牛去勢	400	520	4,280
交雑雌	370	410	3,230
交雑去	390	700	4,280

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 5月15日

東京	1,639円	(前日 1,624円)
大阪	1,669円	(前日 1,753円)

[豚・全農建値] 5月15日

上	中	取引頭数	市況
650円	626円	1,288頭	強もちあい

と畜	牛 125頭	豚 123頭	牛概況	もちあい
売買	牛 122頭	豚 103頭	豚概況	急伸

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 5月15日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	605 (605)	- (-)	5,853	-	もちあい
仙台 [中]	626 (604)	598 (546)	358	44	続伸
栃木 [地]	644 (646)	607 (609)	1,422	39	もちあい
茨城 [地]	662 (648)	634 (626)	1,216	720	続伸
群馬 [地]	666 (645)	593 (572)	2,028	255	反発
さいたま [中]	653 (637)	635 (613)	171	174	反発
東京 [中]	647 (663)	617 (627)	993	878	反落
横浜 [中]	650 (643)	626 (618)	684	676	続伸
山梨 [地]	623 (618)	598 (572)	204	172	もちあい
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	690 (686)	665 (680)	744	243	もちあい
京都 [中]	671 (-)	642 (-)	67	110	もちあい
大阪 [中]	705 (684)	665 (654)	123	71	急伸
神戸 [中]	654 (-)	644 (-)	48	125	-
岡山 [地]	682 (656)	648 (660)	274	220	強気配
広島 [中]	- (627)	- (627)	255	10	-
福岡 [中]	638 (619)	609 (585)	454	89	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 5月8日～5月14日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,785,733 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,088	1,175	1,242	1,161	88,865
うで	756	805	834	800	141,276
ロース	1,059	1,145	1,255	1,157	154,199
ばら	1,126	1,177	1,238	1,184	185,568
もも	791	822	845	818	246,165
ヒレ	1,080	1,142	1,240	1,162	11,034
セット	964	1,037	1,068	1,029	958,626

◇近畿圏 総重量 715,691 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,259	1,351	1,266	53,790
うで	767	799	810	793	116,087
ロース	1,080	1,186	1,296	1,193	99,929
ばら	1,210	1,268	1,279	1,258	122,511
もも	771	805	842	805	165,121
ヒレ	1,179	1,254	1,339	1,253	10,318
セット	941	1,004	1,116	1,030	147,935

[食鳥正肉日経相場] 5月14日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	774	824	1,030	5
ムネ	435	491	590	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 5月13日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,103	697	550	600	650
安値	783	432	290	360	350
平均	854	499	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願い致します。

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強化にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男  
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

#### ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーショナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します